

平成 2 3 年度

甲州市公営企業会計決算審査意見書

甲州市監査委員

甲 州 監 第 9 号
平成 2 4 年 8 月 1 0 日

甲 州 市 長 田 辺 篤 様

甲 州 市 監 査 委 員 林 健

甲 州 市 監 査 委 員 曾 根 益 彦

平成 2 3 年度甲州市公営企業会計決算審査の意見について

地方公営企業法第 3 0 条第 2 項の規定により審査に付された、甲州市
水道事業会計、甲州市勝沼ぶどうの丘事業会計及び甲州市勝沼病院事業
会計の収支決算及び証拠書類を審査した結果について、次のとおり意見
を提出する。

目 次

1	審 査 の 対 象	1
2	審 査 の 期 間	1
3	審 査 の 方 法	1
4	審 査 の 結 果	1

水 道 事 業 会 計

業務の実績について	2
予算の執行状況について	3
経営成績について	4
財政状況について	5
審査意見	6

勝沼ぶどうの丘事業会計

業務の実績について	7
予算の執行状況について	8
経営成績について	9
財政状況について	10
審査意見	11

勝沼病院事業会計

業務の実績について	12
予算の執行状況について	13
経営成績について	14
財政状況について	15
審査意見	16

平成 23 年度甲州市公営企業会計決算審査意見

1 審査の対象

平成 23 年度 水道事業会計決算
平成 23 年度 勝沼ぶどうの丘事業会計決算
平成 23 年度 勝沼病院事業会計決算

2 審査の期間

平成 24 年 6 月 12 日から平成 24 年 8 月 10 日まで

3 審査の方法

審査に当たっては、決算報告書、財務諸表及び事業報告書が関係法令に基づき作成され、かつ、事業の経営成績及び財政状態が適正に表示されているか否かを審査し、事業が経営の基本原則に従い経済性を発揮し、市民の福祉を増進するよう経営されているかどうかについて意を配し、関係帳簿及び証拠書類との照合を行い、併せて関係職員の説明を聴取した。

4 審査の結果

審査に付された決算報告書及び財務諸表は、関係法令に準拠して作成されており、各事業とも決算の計数は、関係帳簿及び証拠書類と照合した結果誤りのないものと認められた。

審査の概要と意見については、事業会計ごとによる。

(注) 本書において、文中及び表中に表示する給水原価、供給単価以外の円単位の数値は、単位未満を四捨五入して、比率(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入とした。

水道事業会計

業務の実績について

本年度における業務実績は、以下に示すとおりである。

業務実績比較

区 分	単位	平成 23 年度	平成 22 年度	比較増減
総 人 口	人	34,989	35,294	△ 305
給 水 区 域 内 人 口	人	20,467	20,592	△ 125
給 水 人 口	人	20,447	20,572	△ 125
対 給 水 区 域 内 人 口 普 及 率	%	99.9	99.9	0.0
給 水 戸 数	戸	7,912	7,873	39
総 配 水 量	m ³	2,868,479	2,963,476	△ 94,997
有 収 水 量	m ³	2,222,663	2,281,182	△ 58,519
有 収 率	%	77.5	77.0	0.5
配 水 管 延 長	m	142,579	141,700	879
給 水 原 価	円	170.36	169.50	0.86
供 給 単 価	円	161.91	157.69	4.22

備考 給水戸数及び給水人口は、各年度末の数である。

本年度における上水道区域の給水戸数は 7,912 戸であり、前年度と比較すると若干増加をしているが、給水人口は、前年度と比べ 125 人少ない 20,447 人と下降しており、毎年の傾向である、「給水戸数の増加に対する給水人口の減少」という傾向にある。

また、総配水量は 2,868,479 m³で、前年と比べ 94,997 m³の減、有収水量は 2,222,663 m³で、前年と比較して 58,519 m³の減、有収率は 77.5%と昨年と比較して 0.5 ポイント上昇した。

なお、総配水量と有収水量の減少については、全国的な経済不況などが背景にあり、それに伴う市民の節水志向などの要因も考えられるので、少ないコストで大きな成果の得られる事業を推進して、今後も効率的な公営企業としての事業運営に努められたい。

予算の執行状況について

本年度における予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には、消費税及び地方消費税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	予算額と決算額 の比較増減	収入率
1 水道事業収益	421,961,000	394,707,452	△ 27,253,548	93.5
1 営業収益	410,631,000	383,126,004	△ 27,504,996	93.3
2 営業外収益	11,310,000	11,581,448	271,448	102.4
3 特別利益	20,000	0	△ 20,000	0.0

収益的支出

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 水道事業費用	414,549,000	405,123,519	9,425,481	97.7
1 営業費用	375,414,000	366,728,777	8,685,223	97.7
2 営業外費用	37,035,000	36,621,977	413,023	98.9
3 特別損失	2,015,000	1,772,765	242,235	88.0
4 予備費	85,000	0	85,000	0.0

資本的収入

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	予算額と決算額 の比較増減	収入率
1 資本的収入	41,662,000	39,362,900	△ 2,299,100	94.5
1 企業債	30,000,000	28,500,000	△ 1,500,000	95.0
2 負担金	4,222,000	4,368,000	146,000	103.5
3 補償金	7,440,000	6,494,900	△ 945,100	87.3

資本的支出

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
1 資本的支出	138,352,000	100,047,780	0	38,304,220	72.3
1 建設改良費	82,498,000	44,194,822	0	38,303,178	53.6
2 企業債償還金	55,854,000	55,852,958	0	1,042	100.0

経営成績について

本年度における経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

比較損益計算書

(単位：円・％)

科目 \ 区分	平成 23 年度 決 算 額	平成 22 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
水 道 事 業 収 益	376,175,545	379,779,326	△ 3,603,781	99.1
営 業 収 益	365,110,765	368,152,943	△ 3,042,178	99.2
営 業 外 収 益	11,064,780	11,626,383	△ 561,603	95.2
水 道 事 業 費 用	388,726,266	398,107,047	△ 9,380,781	97.6
営 業 費 用	358,525,549	367,106,192	△ 8,580,643	97.7
営 業 外 費 用	28,430,777	29,751,076	△ 1,320,299	95.6
特 別 損 失	1,769,940	1,249,779	520,161	141.6
当 年 度 純 損 失	12,550,721	18,327,721	△ 5,777,000	68.5

本年度の水道事業における経営成績では、決算書の損益計算書でみるとおり、事業収益は376,175,545円で、前年度と比べ3,603,781円(0.9%)の収入の減であり、対する事業費用は388,726,266円で、前年度に比べ9,380,781円(2.4%)の支出の減という結果となった。

琴川ダムからの受水を、平成19年度から行っていることにより、配水の安定化は図られているが、負担金などの費用の増加により、今年度も事業費用が事業収益を上回り、12,550,721円の純損失を生じる結果となった。

この損失に、昨年度の繰越欠損金41,738,271円を併せると、当年度未処分利益欠損金が54,288,992円となり、今後の事業計画のなかでも、更に欠損に至る経過が見込まれており、水道料金の改定等事業収益の確保に努める一方、水道施設整備に関わる経費の削減を図り、収益と費用のバランスを考慮に入れた、事業計画の大幅な見直しと梃入れが必要である。

財政状況について

本年度における財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・％)

科目 \ 区分	平成 23 年度 決 算 額	平成 22 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
借 方 (資 産)	4,795,646,155	4,836,185,695	△ 40,539,540	99.2
固定資産	3,861,540,089	3,935,178,342	△ 73,638,253	98.1
流動資産	934,106,066	901,007,353	33,098,713	103.7
貸 方 (負債・資本)	4,795,646,155	4,836,185,695	△ 40,539,540	99.2
固定負債	145,967,869	145,168,211	799,658	100.6
流動負債	20,001,192	34,150,831	△ 14,149,639	58.6
資 本 金	2,113,033,473	2,140,386,431	△ 27,352,958	98.7
剰 余 金	2,516,643,621	2,516,480,222	163,399	100.0

本年度の水道事業における財政状況は、決算書の貸借対照表でみるとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に 4,795,646,155 円であり、前年度と比較して 40,539,540 円 (0.8%) の減となった。

審査意見

以上が平成 23 年度甲州市水道事業会計決算審査の概要である。

水道事業は、市民が日常生活を営む上で必要不可欠な事業であり、昨年 3 月に発生した東日本大震災により、被災地では水道施設もまた大きな被害を受けたことから、これを契機に管路を始めとする水道施設の耐震性の向上がますます重要な課題となっている。

平成 23 年度においては各水道施設の状況を改めて確認し、老朽管布設替を行なうとともに、新設道路への配水管の布設、下水道整備に伴う配水管の布設替えを行なうことにより、災害時にも強い安定した水道を構築することに努められた。

水道料金の改定については、社会経済状況を考慮し、段階的に改定することであり、今後の推移を考察し、より一層計画的かつ効率的な事業展開を図り、公営企業としての健全な運営を期待するものである。

また、水道料金の未収金についても、積極的な回収が求められているが、未納者がどのような理由で未納に至ったかその原因を分析したうえで、未納者一律の滞納整理ではなく、個別の対応策を講ずることが重要である。水道使用者の負担公平の原則を保ち、且つ、安定した給水収益を得ることから、なお一層の徴収努力を望むものである。

しかし、琴川ダムの供用開始に伴う峡東地域広域水道企業団への受水費の支払が、引き続き大きな負担となっており、当年度未処分利益欠損金を生じる結果となった。

今後は水道料金の改定と併せ、水需要の伸びにもよるが、更なる合理化・能率化を含めた経営安定化に向けた対策を図られたい。

勝沼ぶどうの丘事業会計

業務の実績について

本年度における業務実績は、以下に示すとおりである。

業務実績比較

(単位：人[延])

部 門		平成 23 年度	平成 22 年度	比較増減
施設 利用	宿 泊	13,501	13,467	34
	休 憩 ・ 会 議	2,386	2,447	△ 61
	売 店	128,363	121,485	6,878
	温 泉	127,723	118,027	9,696
	食 事	169,288	162,619	6,669
	レ ス ト ラ ン	49,033	47,964	1,069
	宴 会	3,365	3,511	△ 146
	バ ー ベ キ ュ ー	28,248	28,748	△ 500
	温 泉 ラ ウ ン ジ	48,846	46,565	2,281
	美 術 館 カ フ ェ	5,496	5,373	123
	駅 ワ イ ン シ ョ ッ プ	11,490	12,044	△ 554
	釈 迦 堂 シ ョ ッ プ	2,991	3,462	△ 471
	思 蓮	19,819	14,952	4,867
利 用 者 合 計		441,261	418,045	23,216

勝沼ぶどうの丘事業における各施設別利用状況は、上記のとおりである。

本年度は、未だ回復の兆しが見えない全国的な景気低迷状況に併せ、昨年 3 月に発生した東日本大震災の影響により、観光業を主とする勝沼ぶどうの丘事業の経営としては、年度当初は大変厳しい状況であった。

しかし、積極的な渉外活動などにより、部門ごとの利用者数は、合計 441,261 人で前年比 23,216 人増の結果となった。

後述する経営面においても、昨年度と比較して営業的な利益も上回る状況となったが、今後も引き続き都市圏への宣伝活動を積極的に行い、地域の産業、文化の振興及び観光の拠点として、発展的なそして安定した経営の努力を行っていただきたい。

予算の執行状況について

本年度における予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には消費税、地方消費税及び入湯税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	予算額と決算額 の比較増減	収入率
1 事業収益	1,004,434,000	908,645,407	△ 95,788,593	90.5
1 営業収益	1,004,084,000	908,189,839	△ 95,894,161	90.4
2 営業外収益	350,000	455,568	105,568	130.2

収益的支出

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 事業費用	977,221,000	884,471,540	92,749,460	90.5
1 営業費用	940,121,000	850,426,875	89,694,125	90.5
2 営業外費用	37,000,000	34,044,665	2,955,335	92.0
3 予備費	100,000	0	100,000	0.0

資本的収入

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	予算額と決算額 の比較増減	収入率
1 資本的収入	0	0	0	—

資本的支出

(単位：円・％)

科目 \ 区分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 資本的支出	0	0	0	—

経営成績について

本年度における経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

比較損益計算書

(単位：円・%)

科目 \ 区分	平成 23 年度 決 算 額	平成 22 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
事業収益	848,984,129	816,431,725	32,552,404	104.0
営業収益	848,528,561	816,349,580	32,178,981	103.9
営業外収益	455,568	82,145	373,423	554.6
事業費用	824,810,262	806,395,631	18,414,631	102.3
営業費用	821,007,405	806,395,631	14,611,774	101.8
営業外費用	3,802,857	0	3,802,857	0.0
特別損失	0	0	0	0.0
当年度純利益	24,173,867	10,036,094	14,137,773	240.9

決算書の損益計算書でみるとおり、事業収益は 848,984,129 円で前年度と比較すると 32,552,404 円 (4.0%) の増であり、対する事業費用も 824,810,262 円で前年度に比べ 18,414,631 円 (2.3%) の増と、収益と費用の割合では経費が抑えられており、差引いた純利益では、前年度 10,036,094 円の純利益を伸ばして、当年度は 24,173,867 円の純利益が生じた。

全国的に止まらない不況の中で、大勢の集客も見込むことが出来ないが、今後は更に効率的で健全な経営を行い、創意工夫での収益向上と、計画的な費用削減により、財務状況の向上に努められたい。

財政状況について

本年度における財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・％)

科目 \ 区分	平成 23 年度 決 算 額	平成 22 年度 決 算 額	比較増減	前年度に對 する比率
借 方 (資 産)	762,717,829	717,242,266	45,475,563	106.3
固定資産	491,981,360	511,917,919	△ 19,936,559	96.1
流動資産	270,736,469	205,324,347	65,412,122	131.9
貸 方 (負 債 ・ 資 本)	762,717,829	717,242,266	45,475,563	106.3
流動負債	41,873,134	20,571,438	21,301,696	203.5
資本金	602,269,039	602,269,039	0	100.0
剰余金	118,575,656	94,401,789	24,173,867	125.6

本年度の勝沼ぶどうの丘事業の財政状況については、決算書の貸借対照表でみるとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に 762,717,829 円で、前年度と比較して 24,173,867 円 (6.3%) の増となっている。

審査意見

勝沼ぶどうの丘は、本市のワイン振興と観光振興の拠点であり、その期待度は大きい。

しかし、景気に左右される観光産業においては、長引く景気の低迷と昨年 3 月に発生した東日本大震災の影響により勝沼ぶどうの丘事業においても年度当初は利用者数、売上も大きく落ち込んだが年度末には回復し、平成 23 年度決算では前年度を上回る純利益が計上された。

しかしながら、今後も、景気回復が不透明な我が国の経済展望にあっては、更なる経営努力、企業努力が必要である。

そのような中で、勝沼ぶどうの丘事業における財務処理においては、観光施設という側面もふまえ勝沼町時代から独自の会計手法を取り入れられており、予算措置として収支伝票整理や、監査等に対する公開性を考えられている会計処理ではなかった。平成 17 年の市町村合併後に、監査委員は例月出納検査、決算審査、定期監査等で会計処理方法やその有効性の検証を行い、改善指摘を行なってきたところである。

しかしながら、一部での改善は見られたものの、未だに根本的な部分での財務処理の改善がなされておらず、監査委員としても平成 22 年度決算審査では、「依然として関係法令に準拠していない部分も多く見られ、財務処理が適正に行われているとは述べ難い。関係法令に厳格に準拠するよう、会計処理方法の改善を行う必要がある。」との報告を行う経過に至った。

会計処理に独自の手法を採用しているとの指摘に対し、改善計画書を作成し取り組んでいるが、今回の決算審査においても全体として課題が見受けられた。

公営企業にあって、会計業務は経営の要をなすものであり、これに従事する職員の育成が望まれる。さらに財務会計処理の改善については勝沼ぶどうの丘の内部だけでなく、市当局も含め、大きな枠組みでの論議、検討をされるなどの対応をされたい。

勝沼病院事業会計

業務の実績について

本年度における業務実績は、以下に示すとおりである。

業務実績比較

区 分	単位	平成 23 年度		平成 22 年度		比較増減	
		入院患者	外来患者	入院患者	外来患者	入院患者	外来患者
年 間 延 人 数	人	12,878	20,830	13,234	21,515	△ 356	△ 685
1 日 平 均	人	35.2	70.4	36.3	72.9	△ 1.1	△ 2.5
病 床 利 用 率	%	69.0	—	71.1	—	△ 2.1	—
診 察 日 数	日	—	296	—	295	—	1

年間の利用状況において、入院患者は延べ 12,878 人で前年度と比較して 356 人（一日平均 1.1 人）減、外来患者は延べ 20,830 人で前年度と比較して 685 人（一日平均 2.5 人）の減、病床利用率は 69.0%で前年と比べて 2.1%減となっている。

より効率的な医療体制や診療科目の充実、地域の保健福祉関係職員との連携による住民の健康保持、疾病の早期発見や早期治療に配慮するなど、より一層地域医療の中核となる役割を担う努力をされたい。

予算の執行状況について

本年度における予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。
なお、下記の表の金額には、消費税及び地方消費税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額	決算額	予算額と決算額の比較増減	収入率
1 病院事業収益	20,363,000	20,366,014	3,014	100.0
1 医業外収益	20,363,000	20,366,014	3,014	100.0

収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 病院事業費用	20,363,000	20,354,371	8,629	100.0
1 医業費用	17,459,000	17,451,777	7,223	100.0
2 医業外費用	2,903,000	2,902,594	406	100.0
3 予備費	1,000	0	1,000	0.0

資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額	決算額	予算額と決算額の比較増減	収入率
1 資本的収入	19,427,000	19,422,675	△4,325	100.0
1 一般会計負担金	19,397,000	19,397,000	0	100.0
2 基金積立金利息	30,000	25,675	△4,325	85.6

資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 資本的支出	35,032,000	35,025,522	6,478	100.0
1 建設改良費	10,216,000	10,215,450	550	100.0
2 企業債償還金	24,601,000	24,600,106	894	100.0
3 基金積立金	215,000	209,966	5,034	97.7

経営成績について

本年度における経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

比較損益計算書

(単位：円・%)

科目 \ 区分	平成 23 年度 決 算 額	平成 22 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
病院事業収益	20,366,014	20,532,421	△ 166,407	99.2
医 業 収 益	0	0	0	-
医業外収益	20,366,014	20,532,421	△ 166,407	99.2
病院事業費用	20,316,929	20,296,717	20,212	100.1
医 業 費 用	17,414,335	16,661,504	752,831	104.5
医業外費用	2,902,594	3,635,213	△ 732,619	79.8
当年度純利益	49,085	235,704	△ 186,619	20.8

勝沼病院は指定管理者制度により、病院経営は山梨厚生会が行っているため、公営企業としては財産管理のみとなり、医療行為にかかる医業収益や医業費用は公営企業会計の決算書では計上されない。

平成 23 年度では、平成 22 年度と比較して減少しているものの、当年度純利益が 49,085 円であり、本年度も公営企業会計として健全な管理状況であった。

財政状況について

本年度における財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・％)

科目 \ 区分	平成 23 年度 決 算 額	平成 22 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
借 方 (資 産)	560,630,481	565,758,827	△ 5,128,346	99.1
固定資産	535,172,223	541,298,752	△ 6,126,529	98.9
流動資産	25,458,258	24,460,075	998,183	104.1
貸 方 (負 債 ・ 資 本)	560,630,481	565,758,827	△ 5,128,346	99.1
流動負債	0	0	0	－
資 本 金	450,726,984	443,595,319	7,131,665	101.6
剰 余 金	109,903,497	122,163,508	△ 12,260,011	90.0

資産合計及び負債・資本合計は共に 560,630,481 円となり、前年度と比較すると 5,128,346 円 (0.9%) の減となった。

審査意見

平成 17 年の市町村合併後、甲州市にある唯一の公立病院であり、平成 19 年 4 月から平成 24 年 3 月までの 5 年間、医療面での経営は山梨厚生会が、指定管理者制度により運営を行い、甲州市の公営企業としては財産管理面のみの運営となった。

指定管理者である山梨厚生会は、近隣に系列の病院を持つ事業者であることから、甲州市の地域医療発展のため相互で連携し、本来の目的である公共の福祉の増進に寄与するよう、地域の中核的医療機関として、今後の病院経営をさらに充実したものにするよう期待するものである。